札幌市図書・情報館 TOPICS

# 札幌市の先進的な図書館政策が大賞を受賞

**札幌市の図書館の中でも「貸し出しをしない図書館」として誕生した札幌市図書・情報館。その先進的な活動が「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2019」の最終選考会において、「大賞」と「オーディエンス賞」という栄誉ある賞をダブル受賞しました。**

「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」は、NPO法人 知的資源イニシアティブが2006年に創設した、これからの図書館のあり方を示唆する先進的な活動を行う機関を表彰する賞。

今年度は昨年11月13日にパシフィコ横浜で最終選考会が開催され、事前に優秀賞に選ばれていた札幌市を含む4機関が8分間の公開プレゼンテーションを行いました。

札幌市からは札幌市中央図書館の毛利泰大館長、札幌市図書・情報館の淺野隆夫館長と草階彩香さん、北海道よろず支援拠点の中野貴英さんの4人が登壇し、はじめに毛利館長が札幌市図書・情報館は札幌市の図書館の中でもかなり変わった存在であることを紹介。同館の淺野館長が話を受け継ぎ、貸出をしない方針とそのために司書たちが実施している棚づくりについて説明しました。草階さんは「札幌市図書・情報館は、市内に図書館が47施設もあるからこそできた挑戦。日本十進分類法によらない独自の棚づくりは、司書の自由な発想を生かせる環境だからこそ実現できたと強くアピールしました」と振り返ります。

札幌市図書・情報館の司書の草階彩香さん

その結果、札幌市は大賞だけではなく、来場者から選ばれるオーディエンス賞も受賞。「その場にいた人たちにもプレゼンテーションが届いた結果だと思うと、喜びもひとしおでした。賞に恥じぬよう、これからも開館時の勢いを維持しながら、さらに『はたらくをらくにする図書館』としてパワーアップさせていきたい」と意気込む草階さん。日本で最も先進的な活動を行うと称された札幌市図書・情報館。その進化していく棚づくりに、これからも注目です。

昨年11月に行われた「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」最終選考会の様子